札幌彫刻美術館友の会会報　2010年7月

いずみ

No.32

街なかの美を守ろう　（題字　國松　明日香）

自作自選 2

「BIANCA」　小野寺　紀子

自作自選 2　作者の言葉

「 BIANCA 」は、札幌駅前通りのシンボルロード整備事業の一環として、第一生命が札幌市に寄贈し、1991年、駅前通に面する第一生命ビル前に設置されました。

タイトル	「 BIANCA 」
設置場所	札幌市中央区北３西４
制作年	1991 年
素材	ブロンズ
作品高さ	160 ㎝

BIANCA は、北方都市札幌の未来をイメージして制作、タイトルは作品と並び立つアカシアの舞い散る花弁の色からイタリア語の白を意味する「BIANCA」にしました。ここ数年、札幌駅前地下歩道工事のため取り外されていますが、この秋には再設置になります。　（小野寺紀子）

連　載　宮の森の四季 2　本郷新記念札幌彫刻美術館

彫刻作品にとどまらず

業務係長　　梅内　親治

本郷新記念札幌彫刻美術館は昨年から、本郷作品並びに収蔵作品にとどまらず、新しい試みとして、札幌芸術の森美術館、北海道立近代美術館から作品を借用して、本郷新が在籍した旧制第二中学（現札幌西高校）の彫刻家の作品展示を行ないました。

今年度は道内の立体造形家56人による「北海道立体表現展‘10」をはじめ、本郷が卒業した旧制北海中学（現北海高校）の美術部「どんぐり会」の彫刻家、画家の作品展を開催します。

「どんぐり会」は1924年（大正4年）に結成されたグループで、本郷をはじめ、後に挿絵画家として有名になる梁川剛一、今春亡くなった栃内忠男などの著名な作家を輩出した美術サークルです。

このように、今後も彫刻作品以外の美術展・ワークショップなどを開催し、また、他の団体との連携事業を通じて、本郷新記念札幌彫刻美術館の魅力と周知を強めたいと思いますので、皆様方にご協力をお願いいたします。

巻頭言

JR タワーのパブリックアートに聾学生を案内して

松原　安男（会員）

今年２月、思いがけない話が持ち込まれた。JR タワーのパブリックアートを聾学生に解説してほしいという。手話が出来るわけでなし、彫刻作品以外の解説も経験ない。

聞けば、手話通訳は付き添いの先生が行うので心配ないこと。校外学習の一環として行っている行事で、専門家でない市民ボランティアに解説をお願いしたい。札幌彫刻美術館友の会が市民参加の彫刻解説活動を行なっているのを新聞などで知り、校外学習の趣旨にも適うと判断したという。

案内するのは小樽市銭函にある北海道聾学校専攻科情報デザイン科の１年生６人、２年生７人と引率教員５人の計18人。解説する作品は制約された時間の関係から50数点のうち学校側で事前に選定した9点。もちろん安田侃の《妙夢》は含まれている。

相当迷ったが、学習の狙いや内容を聞き、私の出来る範囲のことなどを話し合い、引き受ける気になった。私自身の勉強にもなる絶好のチャンスととらえたのである。

解説の当日、学生らの前で私は、次のような挨拶をした。

「もとより私は、JR タワーの職員でも美術家でも美術館の学芸員でもありませんから、皆さん方に教えるなどという大それたことはできません。皆さん自身で学び取っていただきたいと思います。私は、皆さん方が学ぶためのお手伝いを少しでもできればと願って、今日のお役目をいただいております」

聾学生に対する解説案内は手話通訳つきなので、聴者の場合と何ら変わらない。学生らの熱心な鑑賞態度には好感を覚えた。

「彫刻は誰の作品であろうと、どんな趣旨で作られたものであろうと、見る人にとって、それのことは知らなくても差し支えないことで、純粋に彫刻としていいかどうかが一番大切なことなのだ」

本田明二の言葉だ。絵でも同じこと。解説というよりも、作品そのものに興味を持ってもらえるよう心がけた。

どう解説すべきか悩んだ作品が JR タワー東モール１階にある《音の道》。北海道の風景や情景、季節感などを、〝音〟で感じてもらおうとしたスケールの大きな作品。

音の世界を知らない聾学生。担当の先生も、「聾学生に〝音〟を表現させるのは困難がありますね」という。

模索しているうちに私は、神田日勝記念美術館の小檜山博館長の言葉を思い出した。

「ぼくは芸術というものは、わかるものではなく感じるものではないかと考えている。小説は読んで感じるもの、音楽は聴いて感じるもの、絵は見て感じるものだろう。１枚の絵には10万人が見れば10万種類の見方と感じ方があり…」

〝音〟ではなく、〝絵を見て感じた〟ことを話してもらうことにしたのであった。

友の会の活動が会員のみならず、広く知られるようになったのは大変うれしいことです。

着実に広がる中島公園の彫刻清掃

石川　博司（会員・中島公園パフェ主宰）

およそ9年前に定年退職して札幌市中島公園近くに転居したが、転居先での暮らしは近所に知人もなく寂しいものだった。少しでも地域に溶け込もうと、自己紹介を兼ねたインターネットのホームページ（HP）「中島パフェ」を開設した。

地域の人たちと話題を共有したいと思い、近隣住民に親しまれている中島公園について、情報発信をすることにした。

しばらくすると、地域情報の HP を運営する人と知り合うことができた。以後、地元山鼻の情報を伝えるラジオ番組のパーソナリティー、山鼻地域の情報紙編集長など、次々にいろいろな方との出会いがあった。そして、ある事件がきっかけで、札幌彫刻美術館友の会の橋本信夫会長と知り合うことになった。

「母と子の像」へのいたずらがきっかけ

「2007 年札幌まつり」最終日の夜、中島公園で最も親しまれている山内壮夫の「母と子の像」が、何者かに押し倒されてしまった。高さが115cm のセメント像で、元の台座に納めるのにクレーンが必要なほど重かった。

その後、さらに悪戯が繰り返され、目の窪みに花火を差し込んで火を付けられたりもした。度が過ぎた悪戯に中島公園管理事務所も腹に据えかね、警察に通報した。

この事件をきっかけに、橋本会長を中心に、友の会メンバーと地元住民が協力して中島公園内の野外彫刻をきれいにする活動を始めた。こうして「中島公園モニュメント研究会」（橋本信夫代表）が立ち上げられた。

第1回中島公園彫刻清掃を2008年6月29日に実施。その後、毎年6月と9月に行い、今年も6月中に5回目の彫刻清掃を実施する予定だ。

住民や若者達の輪が広がり、新たな動きへ

1回目の彫刻清掃は、友の会会員ら美術愛好者と中島公園付近の住民が共同して行う初めてのイベントとなった。 約30人の参加があり、単に清掃作業だけでなく、彫刻についての理解を深める意義深いイベントとなった。

3回目からは、ノボテル札幌、札幌パークホテル、札幌北ホテルなどの若い人たちがボランティアとして参加してくれた。 高齢者中心の活動に若いパワーが加わり、老若男女が協力して行う運動へと進化する兆しが見られた。

そして、第5回からは中島公園管理事務所の協力を得られる見通しもたち、「中島公園モニュメント研究会」の活動も新たな段階を迎えようとしている。

私の見たネパール美術事情

奥井　登代（会員）

3月の末、私たちは日本画家、伴百合野さんをリーダーにネパールに出かけた。

観光はもちろんだが、もうひとつ目的があった。2年前にネパールの画家たちが、奥井理ギャラリーを訪れ交流した。その時、伴さんにネパールで個展を、という話があり、息子の作品も展示してはとも言われた。ネパールの状況を知らない私はまず、ネパールの美術事情を知ってから判断しようと思い、今回の旅行に参加した。

ガイドをしてくれたのは2年前に来日した画家の一人。カトマンズには公立のギャラリー、アートコンシルがあり、ちょうど美術大学の学生の作品を展示していた。学生らしい作品が並び、好感が持てた。しかし、古い建物を利用したギャラリーのスペースは広かったが、設備などは十分ではなかった。

カトマンズにはもう一つの公立の美術施設、古い王宮を利用した NAFA（NEPAL ASSOCIATION of FINE ART)がある。ネパールの代表的なアーティストの作品が多く展示されていたが、美術館にはほど遠い感じであった。ここはアーティストにアトリエを貸したり、画材を作製し、画家に提供するなど、美術活動を支援していた。

カトマンズの隣のパタンでは民間の貸しギャラリーを訪れた。設計も近代的でよかったが、このようなギャラリーはネパールでは少ない。また、パタンでは20年間ネパールに滞在する日本人女性画家が活動しているKathmandu Contemporary Artcentreを訪れた。イギリスの支援を受けているというこの施設は新しく、ギャラリーと学生に提供しているアトリエや図書館、教室があり、その1室で彼女は子どもの美術教室を開いていた。ネパールの美術事情も聞くことができた。古い体質が残る一方で、若いアーティストの新しい動きもあるようだ。

滞在中、日本を訪れた画家の一人がアートコンシルで個展を開き、日本人とのワークショップもあり、参加した。ワークショップはインドの画材屋がスポンサーだった。ワークショップではネパールの画家との交流を期待していたが、ただネパールの画家たちが三々五々やって来て、絵を描いてスポンサーに絵を渡していくという形がネパール風ワークショップであるように思えた。

画家たちの生活も垣間見ることができたが、ネパールのアートは歴史も浅く、まだまだこれからという印象。しかし、このような画家は恵まれている階層で、都会でも公立学校では美術教育は普及しておらず、都会を離れると教育はさらに不十分で、識字率も低く、美術教育などは全くない状況も知った。

このようなネパールの状況を目の当たりにして、ネパールで展示するより先にネパールでやるべきことが他にあるのでは、と考えさせられた旅であった。

写真（左上）アートコンシルの前で（左下）ワークショップの開会セレモニー（右上）ネパール在住の画家と（右下）公立の美術施設 NAF

2010 年度彫刻美術館友の会総会・シンポジウム開催

総　会　彫刻地図コンテンツの公開準備と野外彫刻データベース充実

シンポ「市民文化は市民の手で」テーマに市民参加型文化の体験発表

札幌彫刻美術館友の会の2010年度総会とシンポジウムが4月11日、札幌市民ホールで行なわれ。総会では野外彫刻清掃活動、彫刻データベースの充実などを目指す2010年度活動計画、新年度予算を決定したほか、新役員を選出した。また、「市民文化は市民の手で」のタイトルで行なわれたシンポジウムでは、日ごろ、市民参加型の活動を続けている若手ボランティアグループが活動状況を報告した。

総会には会員約40人が出席。議長に松原安男会員を選出、2009年度活動報告、同決算・監査報告を承認した。続いて、2010年度活動計画として、彫刻鑑賞ツアーなど研修活動の実施、野外彫刻の清掃活動、保全のほか彫刻ガイド研修の充実、野外彫刻のデータベース化促進、彫刻地図コンテンツの公開準備などが決まった。また、新年度予算として総額92万5352円が計上され、会員の研修・交流活動費50万円、会報「いずみ」の発行など広報活動費22万円、彫刻清掃・保全、彫刻地図コンテンツ制作費などの一般活動費1万円、さらにDVDプロジェクター購入費を含めた管理費14万円などが認められた。また、2010年度役員（任期は11年度まで）に橋本信夫会長（再任）ほか、新任8人を含む24人の役員を承認、総会を終えた。

シンポジウムのパネラー　左から垂石、柴田、吉岡、中村の各氏

引き続き行なわれたシンポジウムでは札幌市生涯学習総合振興財団事業課の垂石寛史氏が生涯学習を行なう立場から市民参加型文化活動について基調講演を行なった。このあと同氏をコーディネーターに NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団の吉岡宏高理事長が炭鉱遺産を使ったアート展示で地域再生に向けた市民プロジェクトを実施した体験をリポート。NPO 法人 S-AIR 代表の柴田尚氏が自らが主導する外国人アーティストの滞在研修支援を通した地域文化振興運動の実践を報告した。また、札幌建築鑑賞会スタッフの中村祐子氏は「札幌軟石発掘大作戦」と題して、同鑑賞会のメンバー一人ひとりが住宅地図と赤鉛筆を片手に札幌市内の軟石を使った建築物の探索を行なった経緯を発表した。いずれの事例も市民が主体となって新しい文化を担っていく市民参加型の文化活動の力強さをアピールしてシンポジウムを終えた。

2010 年度友の会役員

会長	橋本信夫
副会長	斎藤美年子
〃	大内　和
幹事	奥井　登代
〃	大竹　明子
〃	松原　安男
〃	長峯　慰子
〃	田中　和子
〃	高橋　淑子
〃	桑原　昭子
〃	仲野　三郎
〃	吉岡　達夫
〃	猪俣　岩生
〃	石川　博司
〃	佐々木保枝
〃	濱　久子
〃	※笠谷磨毅智
〃	※久本由美子
〃	※細川　房子
〃	※高野　豊
〃	※岩﨑恵美子
〃	※常田　益代
監査	※船迫　吉江
〃	※吉田　修子

春たけなわ　野外彫刻もすっきり

真駒内第一公園

不順な天候が続き春の到来がやや遅れたが、ゴールデンウイークが終わった5月、友の会のメイン行事、野外彫刻清掃も今年の活動を始めた。まず、14日、南区真駒内曙町・真駒内第一公園周辺で、さらに21日には彫刻美術館のお膝元、宮の森緑地公園周辺の彫刻清掃が行なわれた。参加した会員2人からのリポート。

宮の森緑地

新緑の真駒内散策を楽しみながら

菅野富夫（会員）

地下鉄真駒内駅に集合したあと、真駒内第一公園の佐藤忠良作「牛と少年」像を息の合った作業で洗い流した。ついで真駒内泉町のエドウイン・ダン記念公園で峯孝作「エドウイン・ダン」像にかかった。こちらは6角形の高い台座の上にあり、汚れもなく清掃の必要がないことから、公園事務所でダンの功績などを解説してもらった。ダンと北大との関連なども知ることができ、収穫だった。公園のライラックが満開で晴天にも恵まれ、最良の季節の中、いい散策ができた。

春の陽光が輝く野外彫刻に充実感

岩﨑美恵子（会員）

まず、宮の森まちづくりセンター前にある本郷新の「鳥を抱く女」。センターの加藤修所長も加わっての清掃で順調にスタートした。美術館に隣接する宮の森緑地公園では「太陽の母子像」を洗う。彫刻に触れるのは初めての経験だが、自分がかかわっているのが少しうれしく、不思議な感じがした。彫刻をカットして組み立てること、原型から何体まで鋳造できるかは国際ルールがあることなど学ぶことも多かった。住宅街の枝垂れ桜の甘い香りを感じ、木々の若芽が涼しげな一日だった。

会員優待制度の活用を
彫刻美術館と芸森野外美術館
会員証提示で入館料割引

昨年度に続き、今年度も友の会の会員証提示で札幌彫刻美術館と芸術の森野外美術館の入館料の割引が適用される。彫刻美術館は本館・記念館での常設展の場合300円のところ250円、記念館だけでの常設展の場合200円が150円になる。特別展の場合はそのつど理事長の決める額になる。また、芸森野外美術館は通常700円のところ630円に割り引く。利用の場合は必ず会員証の提示が必要になる。

ギャラリー・展覧会

■笹山峻弘個展「インド・チベット紀行―墨―」

7月13日火～18日日

CENTRAL スカイホール（中央区南1西3、大丸藤井セントラル7階）

笹山さんは友の会会員。

事務局日誌

▼4月7日＝2009年度第12回役員会（エルプラザ）。総会・シンポジウム打ち合わせ▼11日＝2010年度友の会総会（札幌市民ホール）。引き続きシンポジウム「市民文化は市民の手で」を開催▼22日＝札幌市文化部表敬訪問。池田文化部長らと面会、活動状況を伝える▼5月6日＝2010年度第1回役員会（札幌市民ホール）。年間活動計画協議のほか会報32号編集委員会▼14日＝真駒内第一公園彫刻清掃▼21日＝宮の森緑地公園彫刻清掃

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」№32

2010年7月1日発行

発行人　橋本　信夫

編集スタッフ

斎藤美年子：011-643-7246

大内　和：011-884-6025

印刷　山藤三陽印刷

会報「いずみ」32号　目次

自作自選２　BIANCA　小野寺　紀子　・・　表紙

作者の言葉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

宮の森の四季　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

巻頭言「JRのパブリックアートに聾学生を案内して」松原安男　・　3

寄稿「着実に広がる中島公園の彫刻清掃」石川博司　・　4

寄稿「私の見たベトナム美術事情」奥井登代　・・・・　5

友の会ニュース

２０１０年度友の会総会・シンポジウム開催・・・・・　6

春たけなわ　野外彫刻もすっきり　・・・・・・・・・　7

ギャラリー・展覧会、事務局日誌ほか・・・・・・・　8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本　館

■北海中学のきずな―どんぐり会の仲間たち―

会期：7月3日土　～9月5日日

■貸し館

9月11日土　～9月26日日

記念館

■本郷新展：開催中～2011年3月27日日

花展　8月1日まで

版画展　8月3日―10月4日

本郷新記念札幌彫刻美術館　札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎011-642-5709

編集後記　印刷会社に委託しての第1号となった「いずみ」31号の出来栄えはどうだったのか、作り手としては読者の評価が気になるところだ。幸い、「会報がすばらしくなった」「カラーがきれいで、写真も見栄えがして良かった」などと好意的な感想を聞くことが出来、安堵の胸をなでおろした。 さて、本格的なカラー印刷による会報ということで、器が良くなったのに負けないよう、載せる原稿も、レイアウトの仕方も吟味しなければと思っている。「馬子にも衣装」の例えがあるから。　（大内）